

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松聾学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	35名				

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板 (ディスプレイ型)
使用学年及び人数	幼稚部7名 小学部16名 中学部12名 計35名
使用頻度	毎日
使用状況	<p><始業式・終業式・学部集会などでの活用></p> <p>①文字情報の拡大表示 ・事前に作成した資料の他、UDトークやロジャー等の機器と連携して、音声を文字化するなどして、聞こえを補う視覚情報を表示している</p> <p>②電子黒板の機能の活用 ・校内ネットワークへの接続による資料の提示で視覚的支援を行っている</p> <p><各教科の授業での活用></p> <p>デジタル教科書の活用や、子どもの一人一台タブレットと連携し、投影した教材にタッチペンでポイントや解説を書き込んだり、友達の見解を一覧にして提示したり、視覚支援を活用した授業展開を行っている</p>
物品の使用による変化や効果	<p>①これまでは電子黒板の代わりに、プロジェクターとスクリーンを使用していた。プロジェクターは部屋を暗くしないと投影できないため、手話やキューサインが見にくい状況だった。電子黒板は部屋を明るくしたまま見ることができるので、画面と同時に話者も見ることができ、難聴児の学習環境に適している。</p> <p>②これまで以上に視覚支援を充実させた授業が展開されている。</p> <p>③教師にとっても、プロジェクターとスクリーンを運んで設置する必要がなくなり、いつでも据え置き電子黒板を活用できることは、多忙化解消につながった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>年々、子ども達の一人一台タブレットとの連携や他のICT機器との併用が進んできているが、更なる活用に向けた校内研修を充実させていきたい。また、どうしても教師の活用能力に差があるため、校内研修やOJTを活用し、一人一人の技能を高めていきたい。</p>
その他希望や所感など	

2. 活用の様子

- 始業式の様子 児童代表の言葉を拡大して表示している様子



- 小学高学年外部講師による講話 インターネットにつなげて情報を提示している



- 学部行事「新入生を迎える会」 式次第や事前準備した文字情報などを拡大表示している様子

